

11 丹後半島における修験場等山寺跡に関する調査報告

菱田哲郎・稲穂将士・奥谷三穂・鶴岡衛大

1. 調査の背景と趣旨

本調査は、令和2年度地域貢献型特別研究（ACTR）「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」（代表：諫早直人）及び科学研究費補助金・基盤研究（B）「聖地・霊場の成立についての分野横断的比較研究」（代表：菱田哲郎）の一環として実施した。

丹後半島には日本海側屈指の山寺である成相寺やそれと密接に関わる修験者の行場跡が点在する。京丹後市弥栄町野間の金剛童子山や宮津市府中・大垣地区の行者堂は、今も地域の人々に見守られながら現存している。その他にも行者堂や行場の跡などが残されており、丹後半島一帯が修験者の行場であったとする説もあるものの、その全容は明らかにされていない。本調査では、(1) 金剛童子山を中心とした京丹後市味土野地区の山寺跡、(2) 宮津市上世屋地区を中心とした山寺跡を現地踏査と文献史料の両面から調査していくこととしている。その中で、上世屋の慈眼寺から「狭屋山縁起」、「寺籍調査簿」など成相寺との関係を示す資料の存在を確認することができた。本稿では慈眼寺資料と上世屋地区での聞き取り調査を中心に報告をおこなう。

2. 慈眼寺資料について

2020年8月4日の慈眼寺調査では、寺の由緒に関わる歴史資料6点と絵画1点の資料を確認することができた。歴史資料は大きく近世の由緒書と近代の寺務関係資料にわけられることができる。以下にそれぞれの概要を紹介する。

(1) 近世の由緒書

①延宝5年（1677）4月「狭屋山縁起」（卷子装、素共紙原表紙、斐紙、押界）

開山である真応上人と観音菩薩の霊験が記される。前半は、真応上人が観音菩薩の霊夢に導かれ辿り着いた「観音利生の地」で観音菩薩像を見つけて堂舎を開くまでが書かれ、後半は、真応上人が冬の山で飢えに苦しむ中、観音菩薩が化身した鹿の亡骸の肉を食して命を救われる『今昔物語』等に見られる「成合観音伝承」が書かれる。

縁起の末尾部分に異筆の補記があり、寺が移され「成相」の号を称するようになり、慈眼寺が成相寺の奥の院である旨が記される。奥書に延宝5年の年号があり、慈眼寺住持祖先によるものと見られる。

②成立年未詳「狭屋山慈眼禅寺縁起」（卷子装、原表紙渋茶染窠文、斐紙、金泥界）

内容は概ね『狭屋山縁起』と同一ではあるが、細かな表現や描写が改められているほか、異筆で補記されていた「奥の院」に関する記述が同筆で続けられているなど「狭屋山縁起」をもとにして制作されたと思われる。また、表紙が装丁され、界線が金泥で施されるなど全体的に

立派な装いとなっている（写真1）。具体的な年代は不明であるが、江戸時代中・後期のものか。

（2）近代寺務関係資料

近代の寺務関係資料は4点確認できた。最も年記の古いものが、1886年（明治19）3月の「寺籍簿」がある。こちらは、慈眼寺が属する臨濟宗妙心寺派の本山に提出されたもので、寺の由緒と本尊、開山した人物（特栄善種禪師）とその法脈、境内地の広さ、境内の建物、

などを書き上げている。1910年（明治43）7月の「寺籍調査表」もこれとほぼ同内容であるが、1908年（明治41）8月27日に本堂等が「類失」し、1910年から再建したことが記される。この他、仏像類や宝物類が書き上げられており、「聖観音像」「不動像」「毘沙門像」などが記される。この尊像構成は平安時代以来のものであることは注目すべき点であり、後考を俟ちたい。

残る2点は、1889年（明治22）の慈眼寺の本尊「観音大土」の開帳にあたり、「成相寺奥ノ院」の6字を使用することに関して、成相寺側と定めた使用条件等に関する資料である。

3. 上世屋地区での聞き取り調査から

2020年6月29日及び12月13日に、上世屋地区の元住民の方（82歳）と現在住んでおられる方（91歳）に、かつての慈眼寺周辺での宗教行事についてお話を伺った。

- ・7月17日は「十七夜」で観音堂のお参りをした。「さともち」を作ってお供えし、おばあさんたちがご詠歌を歌った。慈眼寺では盆踊りをした。滝の方にも何人かが拝みに行った。滝には不動明王が安置されていたが大雨で崩れて埋まってしまった。
- ・昔は滝で修業したと聞いている。観音堂では日照りが続くと雨乞いをした。村の人が代表の人に「はし」みたいなものを渡して、代表の人が観音堂の前をお百度参りした。滝ノ上に若い男衆が集まって、タライに水を入れて落水口の辺りから下に向かって水をかけた。大声で「雨ふれ～雨ふれ～」と何度も水を放った。すると2～3日後には必ず雨が降った。

4. まとめ

この度の調査により『今昔物語集』、『成相寺古記』等にある成相寺観音伝承や成相の号の由来を確認できた。また、銚子の滝ではかつて雨乞いの儀式がおこなわれたことなど、慈眼寺周辺に古くから霊場があったことが確認できた。調査にご協力いただいた地域の皆様並びに顕孝寺ご住職千賀博文様には感謝申し上げる。今後さらに、丹後半島一円での山寺跡調査を進めていきたい。

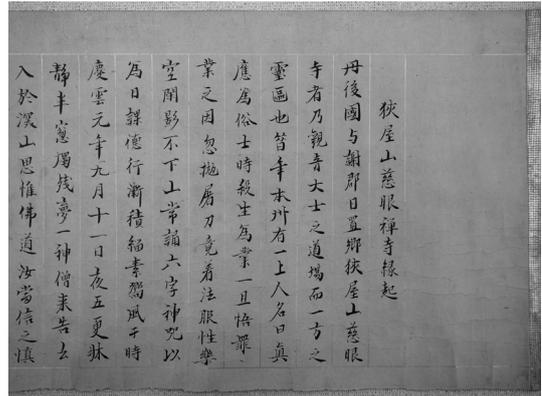


写真1 狹屋山慈眼禪寺縁起（巻頭）